

2020.8.28

「現場における集落・地域の活性化への取組」

説明資料

九州農政局 三善 浩二



**宮崎市 田野町
八重(はえ)集落**

**中山間地域
(高齢化率:48%)**

(H30時点)

人口:87人(←156人<H16>)

世帯数:33戸(←45戸<H16>)

(うち農家数:21戸)

農地面積:約60ha

(うち田35ha、畑24ha)

**主な作目:水稻、大根、
たばこ、野菜
肥育牛**

きっかけは？



大根やぐら

(12月下旬～1月中旬)

話し合いの結果

人が訪れるよ
うな集落にした
い！





①集落の夏祭りを大きく (一大イベントとしての取組)

周辺の、子どもたちをターゲットに。
(→親が必ず付いてくる、じいばあも。)

魚のつかみ取り





そうめん流し

鮎の塩焼き





テントで休憩





文化・芸能を披露

(関係機関の協力)
県職員:お客さんとして参加。
市職員:補助金対応、会計担当。
宮崎大学:祭りの運営スタッフとして。
〈農学部学生〉





②農業体験農園

(恒常的な交流の取組)

耕作放棄地を再生利用



土日農業を
やってみませんか！

※将来は、「空き家を改修して、土日宿泊を可能に」
⇒ 人が来ると、ビジネスチャンスが広がる。





笑顔いっぱいの集落到。

岡山県 みさきちょう 美咲町 さかい (境地区)

きっかけは？

取組内容

棚田の荒廃をくい止めるため、そばの栽培を始め、農家のそば屋「紅そば亭」^{あか}の開店、そば祭りの開催やそば打ち体験の受入れなどへ発展。

また、大学生との連携により、地元境神社の秋の大祭での大御輿の20年ぶりの復活や獅子舞などの伝統文化の保存・継承に取り組む。





丹精こめた こだわりの味を 伝えたい(全会一致で進める)



棚田のそば屋「紅そば亭」

加工・研修室

公民館



農家のそば屋「紅そば亭」



そばまつり



そば打ち体験室



加工場

- おしながき**
- ・もりそば 又は 棚田そば
 - ・いなりずし
 - ・そば豆腐
 - ・季節の野菜の天ぷら
 - ・ホンソロコの甘露煮
 - ・こんにゃくのからし味噌
 - ・漬け物
 - ・デザート
- そばアイス 又は そばがき

1,300 円



棚田御膳

新メニュー
事前予約が必要です。

- 地元産の材料をふんだんに使用しました。
- ・そば粉は地元産です。
 - ・ホンソロコは地元養殖
 - ・油揚げは地元産大豆を使用し、地元“やまこ工房”グループが加工しています。
 - ・野菜の天ぷらは、地元産野菜や山菜を使用します。
 - ・こんにゃくは地元生産・地元加工を行っています。

岡山大学生の蕎麦の種まき(岡山県美咲町境地区)



2008 美の里づくりコンクール(日本一の農村景観)
農林水産大臣賞 (岡山県美咲町 境地区)



拝啓

三月に入りました。こちらはまだまだ寒く
やうと梅が咲きだしたところですが、

三善先生の足付、たいぶよろしいようか。
農林省交付金で消雪機庫を改修整備して

農村交流館を作りました。棚田見学ツアーと

そば打ち体験、又学級行事でそば打ち体験などに
活用するつもりです。

この十年間、三善先生の御指導、お力添えを
いただき、農林省の交付金を受けることができ幅広い
活動ができました。

地区民一同感謝・感謝です。

これからますます人も減ってきて活動も鈍って
くると思いますが、力を合せて「仲良く」を忘れず
がんばってまいりたいと思っております。

年度末で、お忙し、日々と思っております。お身体に
気をつけてください。

私も酪農を中止して一年足らず、そば打ちに
なりおしたのが、たいぶ慣れてきました。

十年を込めに三善先生に一度お礼を

申し上げなく、乱筆を省みず、パンを敷きまわした
みんなでお待ちしております。機会があれば
是非、お立ち寄りください。

本当にありがとうございます。

三月十一日



2017.10.9 境神社の秋の大祭にて（岡山大学の学生が、毎年後輩に引き継いで応援）

集落・地域の活性化のパターン

タイプ① 強力なリーダーが引っ張る

タイプ② コミュニティによる経済活動
<1集落→校区単位(大字)>

2

<有志>

【法人】

・加工・販売(6次化)

1

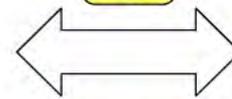
<全員参加>

【集落営農(営農組合)】

・作付調整
・農地の貸借・作業受委託

耕作放棄地の解消

3



交流

(食)
(健康)
(教育)
(環境)

【消費者】

・観光農園
・グリーン
　　ツーリズム
・フットパス
・子ども交流
・食育
・福祉連携など

景観10年、風景100年、風土1000年



18

集落の活性化】①所得増 ②交流・定住

【集落のきつかけ、自主性】

【行政等の応援】

P (plan)

計画づくり

<どういう集落にしたいか>

D (do)

実行

<そのために何をするか>

C (check)

評価

A (act)

改善実行

「地元のやる気」
「地元の合意形成」
「地元の責任でやる」

お金の
かから
ない取
組から
始める

収益が
出る楽
しさ

① 相談窓口の設置(農政局等)

② プランナーの育成

- ・ むらづくりプランナー(総合的な見地から)
- ・ 専門家プランナー(実践目的に応じて)
作物、加工、販売、交流、定住など

③ 地元リーダーの育成・研修

- ・ 取組のノウハウ、合意形成を始め、PDCA
の実践方法を習得させる。

④ 支援事業の充実

- ・ ソフト・ハード両面から、交付金等を強化。

※テレワークの定着等で、ますます田園回帰の動きが加速する(田舎のネット環境整備が重要
→是非、農水省の事業で!)